

村民の記憶

—東海村、そのとき、あなたは—

episode 1

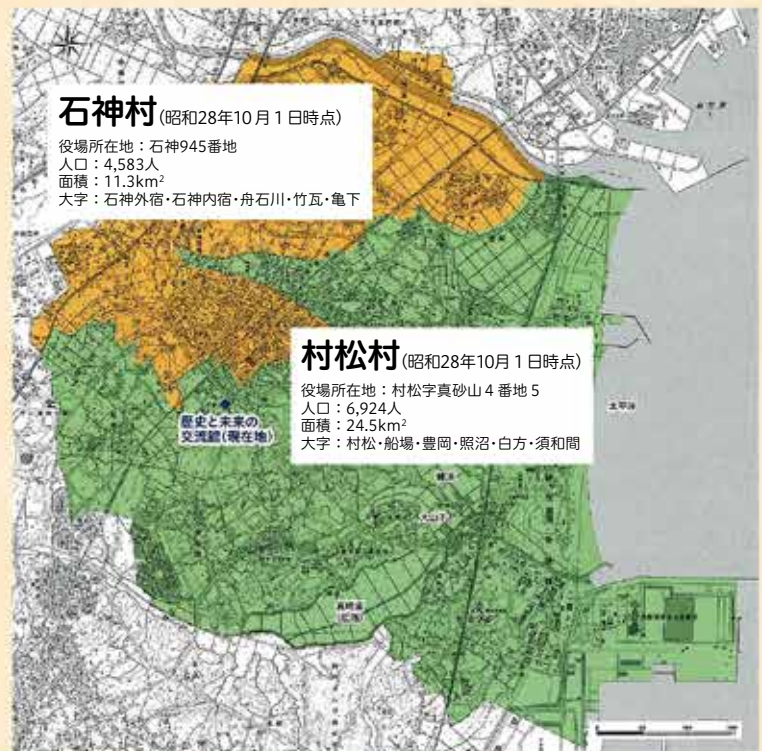
東海村の誕生

昭和30年3月31日、石神村と村松村が合併し「東海村」が誕生しました。誕生当時、東海村はどのような光景だったのでしょうか。その時代を生きた子どもたちの記憶をのぞいてみましょう。

東海村名の由来

昭和30年1月5日、村松村と石神村からそれぞれ33人の合併準備委員を選出し、1月8日に東海中学校において第1回準備委員会が開催されました。新しい村名について慎重に協議した結果、両村組合立の東海中学校の東海を採り「東海村」とすることに満場一致をもって決定し、昭和30年3月31日に東海村として発足しました。

さて、その「東海」ですが、水戸藩の学者である藤田東湖の詩の一節「卓立す東海の浜」から引用したもので、海上の朝日が照らすこの村にふさわしい名前でしょう。(村政要覧「東海村」(昭和36年)より筆者要約)



▲村松石神組合立東海中学校



▲東海中学校の脇にあった東海村役場



▲村松村役場



▲石神村役場

昭和20年代～30年代の東海村の主な出来事

- 昭和23年 村松石神組合立東海中学校が開校
- 昭和24年 須和間分教場が須和間小学校になる
- 昭和30年 東海村が誕生
(初代村長・川崎義彦、人口11,583人)
- 昭和31年 日本原子力研究所の東海村設置が決定
東海村役場新庁舎が完成
- 昭和32年 日本原子力研究所第一号原子炉(J R R-1)が臨界
日本原子力研究所・荒谷台住宅の整備が始まる
- 昭和34年 原子燃料公社東海製錬所が開所
日本原子力研究所・長堀住宅の整備が始まる
- 昭和37年 村松小学校が閉校
白方小学校・照沼小学校が開校
- 昭和39年 東海村役場が全焼、東海中学校の一部が類焼

合併祝賀会行事 次第

日程 昭和30年9月9日(金)
場所 東海中学校
催物 司会と腹話術・浪曲・奇術・曲芸・歌謡ショー
小中学生旗行列、花火打ち上げ
(村政要覧「東海村」付録(昭和36年)より引用)

合併記念式典の思い出

記念式典の日のことをよく覚えています。朝からドーンとあがる花火、祝賀行進で子ども達の振る小旗、腹を抱えて笑った演芸会など、それは華やかでした。あのとき、強い予感がありましたね。これからは村は絶対によくなるんだと。(「東海村合併30周年記念誌」(昭和60年)より引用)



須和間分教場～東海中学校の思い出【小学生時代】

昭和22年、旧須和間幼稚園のところにあった須和間分教場に入學しました。村松小学校の分校で、のちに須和間小学校になりました。須和間小学校に通っていたのは、押延・須和間・船場・川根の一部の子どもたち。6年間ずっと1クラスで、児童数は30人程度だったと記憶しています。

当時は、戦後間もない混乱期だったため、鉛筆や紙もきちんとしたものではありませんでした。学校には体育館がなく、入学式や卒業式には2つの教室をぶち抜きにして利用していました。唯一の楽しみは、ぶち抜き

の教室での映画の上映でした。学校ごとに順番でフィルムと上映機器が回ってくる機会があり、須和間小学校は私が5・6年生のころに回ってきました。回ってくるといっても、自分たちでフィルムと上映機器を取りにいかねばならず、佐野小学校までリヤカーを引いて1時間くらい歩きました。

映画を見るには教室を暗くしなければならないのですが、暗幕がなかったため、1人1枚ずつ家庭からむしろ(わらなどを編んで作った敷物)を持ち寄って暗くしました。むしろはほこりだらけでしたが、みんな興味を持って聞き入っていました。覚えているのは、「ヒロシマ」という映画。原爆のことを描いた映画で涙しました。

【中学生時代】

東海中学校は木造2階建てで、3年生の教室が2階でした。私が中学2年生の時に石神村と村松村が合併して「東海村」になりました。合併の時は、行列のようなことをやったような気がします。合併については、特に違和感はありませんでした。

東海村という名前も、東海中学校があったため、違和感なく受け入れることができました。東海中学校は1学年5クラスあり、1クラスあたり48～49人でした。(昭和15年生まれ船場地区)



▲須和間分教場

【村の記憶 大募集】

現在、「広報とうかい」では、昭和40年代～50年代の東海村の記憶や写真を募集していますので、ぜひ情報をお寄せください。情報は、電話またはメールで、下記の担当へご提供ください。

【問い合わせ】生涯学習課博物館・文化財担当(歴史と未来の交流館内) ☎287-0851 ✉syougaigakusyu@vill.tokai.ibaraki.jp